



1月号

園長だより

H28. 1. 7
新渡戸文化子ども園

「握手」か「ぎゅっ (HUG)」

新年、おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

毎月行われている誕生会や、始業式、終業式等、ホールにて全体の集会が行われた時に、必ず全員の子どもたちとしていることがあります。

終了後、お部屋に戻る際に一人一人と「握手」か「ぎゅっ (HUG)」をする事です。子ども達それぞれの思いで、「握手がいい!」「ぎゅっがいい!」「両方!」「どっちも!」と笑顔で答えてくれます。まれに、反抗期に入った子どもなどは、ぷいっ!と向いて行こうとするので、後ろから「ぎゅっ!」とすると、必ず笑顔になります。そして、照れくさそうに走っていきます。全員の子どもに共通する表情は、笑顔です。100%笑顔が返ってきます。

オーストラリアに住み初めの時、挨拶には、老若男女問わずに知り合い程度や初対面であれば、握手、または男女間であれば、握手と頬にキスの場合もあり、かなり戸惑いました。慣れるまでに1年以上かかりました。さらに、親族、親しい間柄であれば、上記に加えて「ギュッ! (HUG)」を、老若男女問わずしていました。これもまた、慣れるまでに1年以上かかりました。

しかし、1年が過ぎ慣れ始めたころから、「スキンシップはやはり大切。子育て、教育にもスキンシップは本当に大切だな。」と、肌で感じました。それは、何もわからない日本人の私を、こんなにも皆が受け入れてくれている、と肌で感じた安心感でした。

日本にも、お風呂に一緒に入る、添い寝をする、というスキンシップの方法がありますね。オーストラリアでは、お風呂は子どもだけを入れ、親は衣類を付けたまま体を洗ってあげるのが一般的でした。また、生まれてすぐに別部屋で子どもを寝かすことが一般的でした。子育ても国が違ふとこんなにも違ふものだと感じました。

さて、万国共通、子どもはどうでしょう? 「握手」か「HUG」をされ、100%笑顔になる。その安心感。そして、愛されていると感じる安堵感。それがあふからこそ、外に心が向かっていき、ポジティブな心を持ちやすくなるように思います。

安心感、安堵感がなく、不安ばかりをかかえていたら、心が内向きになってしまい、ネガティブになりがちになってしまうのではないのでしょうか? 大人も一緒ですね。

頑張っている親御さん(特にお母様)を見たり、お話をお聞きしたりすると、「一緒にがんばりましょう!」と、つい「HUG」したくなってしまうのですが、言葉に変換しています。

日本では「お辞儀」文化ですから、社会人としては「握手」や「HUG」は時と場合を選ばなくてはならないと、時々反省をしております。

年の初めの、子どもたちとの「初握手」か「初ギュッ! (初HUG)」と、100%の笑顔がとても楽しい初春でございます。
(鈴木 恵美子)

